

日本新経絡医学会報 2016年6月26日 【第6回日本新経絡医学会開催】

平成 28年 6月26日(日)に広島大学医学部 広仁会館において第6回日本新経絡医学会が開催されました。参加者は医師、鍼灸師、患者、医学生、鍼灸学生など総勢200名の参加者に会場していただきました。

開会式は会長の宇土博氏、副会長の茂原治氏による挨拶ではじまり、午前中は9題目からなる学術講演が発表されました。



写真1. 茂原副会長 挨拶

演題1で平郡恵子氏（キョセ北口皮フ科）は「皮膚科診療と新経絡治療例」を発表され、皮膚科外来に於いて、西洋医学的治療に新経絡治療の併施は、帯状疱疹、蕁麻疹、接触性皮膚炎などに有効であると報告されました。

演題2で宮西圭太氏（みやにし整形外科リウマチ科）は「整形外科領域における新経絡治療の経験」を発表され、肩関節周囲炎に対する新経絡治療の有効性は65%であったことを報告されました。

演題3で宮本昭二氏（すぎやま按腹鍼灸院）は「リウマチの炎症反応が改善-自己免疫疾患のへそ按腹の展望-」を発表されました。薬物療法を併用せずに適切な按腹療法を行うことで、病症改善の可能性があることを報告されました。

演題4で倉橋徹氏（米子東病院リハビリテーション科）は「自動車追突状況の違いによる外傷性頸部症候群の患部選択と新経絡治療」、演題5で三橋徹氏（田島診療所）は「再就職

に新経絡治療が有効と考えられた難治性疼痛症例」をそれぞれ発表され、新経絡治療を用いて西洋医学では難治とされている病状に有効である症例を報告されています。

演題6で北原照代氏（膳所診療所、滋賀医大社会医学講座・衛生学部門）は「新経絡治療により改善した「ばね指」（弾発指）の2事例」を発表され、新経絡治療を患者に教え、患者自らツボを押すことにより弾発現象が改善された症例を報告されました。

演題7で栗野純平氏（公立置賜総合病院手術室）は「立ち作業中の下肢疲労対策における新経絡治療の効果の検討」を発表され、新経絡治療は下肢疲労、むくみを軽減させる可能性があることを報告されました。

演題8でブランランド由衣氏（鍼灸院BRANLUND）は「学習障害、発達障害に対する新経絡治療の効果」を発表され、超低出生体重児に対して新経絡治療をリハビリに併用することで、有効であった症例を報告されました。

市民公開講座では向野義人氏（福岡大学スポーツ科学部）が「病気は日常の動作に発見できる-養生に生かすM-Test-」を講演されました。M-Testは痛みなどを誘発ないし憎悪させる動きの分析から治療すべき経絡を判断する方法です。この講演では、M-Testを用いると病気は日常の動作に発見でき、それを養生にいかせることを解説されました。



写真2. 向野先生 講演

続いて、本学会会長の宇土博氏（友和クリニック）による記念講演、「学習障害、発達障害の原因と新経路治療－新経路治療の進学、就職に与える効果を中心に－」を発表されました。



写真3. 宇土会長 講演

この講演で新経路治療は、①幼児から40代まで幅広い年齢層を対象に効果が期待できる②進学、就職からその後のフォローまで、長期的な効果が期待される③この治療による共通的な効果は、落ち着いてくる、意欲が湧いてくる、持続的な取り組みができる、コミュニケーションが改善する、論理的な理解力が高まる、運動能力や手先の器用さが改善されると報告されました。

これらの効果は、進学や就職、自立生活をするうえで、きわめて重要な能力です。今後、さらに症例を蓄積し、新経路治療プログラムを確立し、また、教育、就労支援機関との連携を構築していきたいと述べられました。



写真4. 溝渕先生、教育・就労支援機関の方々によるシンポジウム

最後に、就労された発達障害の子弟のお母さん、発達障害の教育機関ならびに就労支援機関の方々による「発達障害の治療、教育、就労支援の連携」についてのシンポジウムが行われました。このシンポジウムでは、新経路治療を受け就労された方のお母さんが、幼少期から就労に至るまでの道のりを述べられ、次にこの方がお世話になっているコロロ発達療育センター松山教室室長がこの機関の概要を述べられ、最後に広島を中心に介護、児童デイサービス、就労支援事業所を展開されている有限会社リラックスさんが事業の概要を発表されました。

お楽しみの懇親会では、広島にあるフレンチレストラン和飲屋ビストロ・ド・イベントスさんに今年もケータリングをお願いしました。食する人が喜んでくれたらという愛情いっぱいの美味しいお料理とワインで、和やかなムードに包まれた懇親会となりました。



写真5. 懇親会

今年で6年目を迎えた日本新経路医学会ですが、今回、教育機関ならびに就労支援機関の方々が学会に参加され、大変有意義な学会になったように思われます。今後さらなる発展を皆様と共に歩んでいきたいと思っております。

また来年も本学会でお会いできるのを楽しみにしております。

ありがとうございました。

学会事務局